

戲道通鑑

神祇之類
舞弄之類
卷之三



1640

卷之四

本源

乾道通鑑序

伊所冬暖可夏暑有石井可飲能言是
 宋天竅雲氣春寒冬暄保捺友生向火相話
 產隅耳一古响々讀乾及通鑑乃大隱殘口
 子所撰也凡膠柱鼓瑟者計之物掛板而曉
 目僮乘惰剪燈人見之思擗管下領以略跡
 出遊定外考國和而述竅窈好速之乃寫人



情以著伉儷慕之心支竺桑典章播於綢
次儒稱神樞要貫于毫端人唯不敢嘗和迄
生可紙系乃評林橫总新解笑海令人報轉
譯漢而通俗詢諺以隱詞顧目非浩以於祥
定室水支願お親去月窓而棹突お去如波
以爲四智圖の岸堂了捨教有筏捨去忘心
觀礪曠得能去塵言細語皆陶弟一象比賦

睦連理好花鳥使亦認爲護佛乘縁耶醫
跡口翁詮人也蓋去身应須狸ぬお姑之精
乎匪童去三古佛陀之取不知况又辯深可
答夫去問お徳佛矣哉於此乘興裁爲之序
又咏詩軒渠々々譜四
根者世雙跡口翁千言並注出胸中於納案
入去如海精鑑人情通又通

武家ノ子ノ入ノ一ノ六百年ノ頼朝卿
父子三代五代ノ軍尊氏卿ノ三世織田豊臣
氏ノて又幾靜然也七世さくく物國
さるれ車坐さる南海ノ鯨吼くわんご山ノたけ
三ノとがやあせとんいぬあ仁儀の
器うらめめぞ後威風強まぬ化くわけて兄才か鋒せん楯
君長とじりぬる青表あののさくく不

ゆるみてことし是己の欲す私の天心
よゆるせざるがゆへに愛よ慶長一統の治天
百有余年四夷静よ八蠻治る國風豊り
万民和みてカ々に千秋樂を唱へ家々に
美の事樂歌祝ふこと偏よ天よ稟地よ封
す明君の神武聖文せいぶんれ德澤とくたく寛仁大度
以餘薰よりさくし仰へし今東本一百〇の

正徳めいし未

卯月八日

似切赤



艶道通鑑卷之一

神祇之卷目錄

- 一 けしきむらさきとうふの段
- 二 天地澤合し申れ段
- 三 三編の明神の段
- 四 賀茂乃明神の段
- 五 大和國布留れ社の段
- 六 日本武尊の段
- 七 元恭天皇の段
- 八 宇治の橋姫の段

- 九 うはかりの段
- 十 かくや姫の段
- 十一 常陸常代段
- 十二 黄楊の小掃の段
- 十三 在原業平の段
- 十四 光徳氏の段
- 十五 釋の淨藏の段
- 十六 何人團むの段

けしきゆきいささか。何事いふは。たまふはくそ及
 ぶらして道いそは。誠い失ふ。智者い過りとい。彼チシ
 プカシぬ泥て。其点の唐本よむ。むがごれよ。和國の道
 かり教と。俗に落るまじして。足本のゆゑ。公さげ。愚者の
 及ぶら。一文不通。て。芦の糖より。天とのち。ちて。眼目
 ちづる。物。考。た。事。い。つ。ま。だ。く。要。公。さ。じ。善。公。す
 ひ。れ。を。く。和。漢。の。あ。書。二。回。の。傳。文。車。の。万。枝。後。牛。の
 千。と。汗。く。七。善。言。の。古。人。の。糠。粕。さ。し。情。藏。人。の。誕。と
 ち。て。も。蓋。か。た。る。さ。が。鋸。屑。の。ゆ。い。強。も。あ。ら。と。を
 を。と。い。掃。溜。と。ら。て。る。水。れ。の。奥。い。人。里。に。て。本。の

さしみて。一夜の契もなす。百年の命も物うたなす。
さうが。餘の和をて。さうさうさうさう。異國に禮と借して節
を用い。本りふ。げさうの其禮つらと守りて。根本の和乃
道。張先。唐も昔の和とさびて。礼を行ひ。に。つれ程さう。
礼のわたりて。和を失い。人。禮記。禮勝則難。樂勝則流。
禮乃勝とい。和の本か。は。い。歌。也。樂の勝とい。礼の言。は
ゆ。は。流。也。和を以て。礼とゆい。礼を以て。和とさう。て。修。も
さる。似。う。ぞ。道。中。と。い。つ。さ。ふ。今。の。世。の。中。根。上。る。れ。れ。づ
ら。ん。う。ら。て。の。つ。つ。和。ま。の。道。を。根。を。れ。ま。婦。じ。ま。ま。の。う
さ。う。り。さ。子。洞。り。ど。君。が。平。か。は。只。身。あ。り。ど。う。性。と。さ

理。礼を以て節とる。節高にめて。い。少。難。ま。ぐ。に。は。
さ。ん。は。兼。つ。ら。ま。の。は。は。か。ど。や。是。久。く。れ。お。ち。和。
本。げ。ま。と。つ。と。れ。を。ま。く。親。和。の。つ。の。を。え。て。い。禽。獸
の。さ。い。と。か。と。ん。至。る。い。礼。泥。じ。の。偏。僻。み。て。慮。ら。れ。法
織。か。り。我。朝。は。は。れ。さ。う。い。神。代。の。德。化。を。明。く。さ。う。さ。
大。ま。ふ。和。ぐ。の。域。を。本。や。し。及。び。ば。さ。う。教。行。乃。道。り
是。と。踏。こ。み。わ。き。れ。浦。の。係。も。な。か。く。さ。う。忘。慕。の。別
の。情。松。風。菴。月。の。樂。を。さ。う。ん。と。て。本。と。さ。う。君。さ。う。さ
け。さ。う。性。も。さ。う。ま。の。が。唐。の。礼。も。借。り。て。さ。う
と。を。て。禽。獸。の。い。か。ら。さ。う。行。い。か。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ



新編

卷

不具なり。面足る。今梓をさり。て。高次。倭装。倭
 装冊を化して。天のは。務のよ。て。廻。多。倭装。倭の。曰。我。
 一。雄。の。元。湯。の。餘。行。の。あり。と。倭装。冊。言。我。一。雌。の
 元。法。れ。欠。ら。あ。と。男。神。言。い。我。餘。行。を。汝。の。欠。ら。不
 小。合。え。ん。と。是。夫。婦。混。合。たり。と。さ。ら。ふ。女。神。先。に。唱。て。不。欠。少
 男。に。遇。れ。と。音。さ。り。と。男。神。不。祥。と。さ。ま。い。て。再。合。さ。り。と
 一。は。男。神。不。欠。少。女。に。遇。れ。と。祝。して。う。神。より。一。女。に。男。と。化。せ
 給。ふ。陽。流。て。陰。吹。の。天。地。の。は。也。鶴。鶴。日。林。月。林。の。天。に。後。し。て。あ。り。て。
 蛭。子。の。海。に。流。し。素。盞。雄。を。ぞ。げ。國。を。領。し。あ。と。法。西。に。し
 色。父母。の。侍。公。と。も。せ。ま。た。志。げ。の。國。公。と。り。や。り。其

後。姉。の。天。神。と。誓。物。の。中。に。侍。子。を。生。て。天。の。慈。恵。耳。れ。尊
 八。は。乃。大。蛇。と。退。治。し。て。稲。田。姫。と。嫁。り。大。己。貴。子。を。さ。り。
 大。己。貴。子。と。幡。姫。と。い。と。運。び。て。あ。い。通。し。その。行。き。素。盞。雄
 の。ふ。く。を。さ。り。け。り。と。さ。り。末。の。世。に。ぞ。の。情。う。り。事。は。し。給。ふ
 幡。姫。と。嫁。て。一。百。八。十。神。と。さ。り
 儼々。梓。の。尊。と。り。あ。り。天。照。大。神。れ。皇。孫。此。下。界。へ。天。降
 は。り。て。日。本。と。名。し。け。り。け。り。後。に。侍。神。か。り。天。より。下。り
 也。後。に。折。り。本。の。天。照。大。神。一。夜。の。契。と。結。ぶ。と。あ。り。て。
 け。土。へ。下。り。と。さ。り。倭。邪。姫。を。さ。り。て。尊。の。侍。子。を。さ。り。け

しては誰にせらるゝ氣色もほ。非情の金根が威勢は
 ちかいてすて人情のまき。下さば、至りてい。暮用して足
 て女房おのせおれ損ぬて退お。女房のまよはつて
 ち。己おのまきさる。だの涙たれと。口強よ。あ。思ふに
 夜合の欲のめりて。陰湯の液を。ま。い。乳。ま。つ。ま
 寒て。情乃ま。い。る。い。ら。う。ど。ま。婦。と。い。い。ら。あ。う。種。と。を
 一。ん。あ。れ。方。便。さ。れ。ど。り。て。世。の。あ。ら。り。と。願。を。う。り。と
 三。條。の。福。を。い。り。細。ら。く。お。得。る。程。つ。ま。は。て。福。な。ら。う。
 何れ事ともい。ま。ん。ご。ら。は。孝。行。を。親。の。つ。と。と。る。物。り
 石川や津見の小川は清く。小物わ。ふ。女。あり。し。み。鴨の羽は丹塗

乃矢流。あ。う。て。女。の。腔。よ。と。ゆ。り。う。種。を。持。つ。り。と。よ。ら。と。胎。前。
 男は子ぬけり。此女れ爺か。う。子。け。り。事。は。母。ま。の。ど。く。ら。を。て。
 其まを。と。ん。ど。娘。返。答。や。と。と。か。村。中。れ。若。者。も。乃。四
 ぬ。ま。ご。と。と。あ。り。て。此。子。が。三。葉。に。ぬ。年。と。こ。ら。打。集。る。
 酒。き。一。此。子。に。盃。ぬ。も。て。爺。ふ。さ。を。と。り。い。此。子。軒。ぬ
 け。て。丹。塗。の。矢。ぬ。此。盃。ぬ。持。ぐ。と。神。祕。な。れ。い。白。地。は
 い。ん。ぬ。事。あ。や。い。じ。ぐ。う。の。昔。い。た。の。や。う。る。ぬ。忘。れ。ぬ。丹。塗
 の。矢。ぬ。松。尾。の。明。神。娘。い。れ。乃。宮。其。子。と。り。上。は。茂。れ。神。を。い
 大和乃石の上。布留の社。も。鈕。の。流。く。女。乃。二。布。い。く。ま
 つ。い。る。う。と。布。に。留。ふ。と。い。書。れ。た。ら。と。

うよらるる也。ねぞ玉津島の神靈。ひろりのどけく。末の守ふ
跡ををんを多つ。じりや死男女の中と。夫万代と。意眼
ありん。五聖器中。うつて。角目。うてん。いう。むらう。そく。せ。
神慮を。く。め。ち。あ。ふ。び。き。色。と。う。一。端。の。移。あ。て。刻。を。か
の。さ。け。う。つ。十。人。の。妻。百。人。の。中。直。直。わ。り。も。い。て。そ。の。こ
み。じ。れ。わ。を。い。つ。と。今。時。の。人。れ。公。南。分。れ。色。に。や。ご。こ。統
浮。氣。の。熱。よ。も。ん。か。り。て。産。を。う。れ。泥。よ。ふ。り。也。馬。ま。誓。と
ま。く。口。説。め。女。れ。為。魂。あ。い。こ。を。あ。ぶ。る。さ。い。う。風。ね。と
あ。て。末。げ。ぬ。事。い。う。く。や。あ。び。さ。ら。ね。あ。う。ま。ぐ。女。と。娘。
て。じ。の。ぬ。ら。ぬ。め。傍。れた。男。れ。方。い。の。を。う。り。南。分。れ。事。欠

代。され。い。病。ん。じ。き。も。せ。あ。い。じ。ご。と。又。女。の。方。より。仕。は。り。る。を
も。男。つ。ま。い。不。當。さ。い。う。う。て。稟。の。さ。れ。乃。さ。り。ま。ん。べ。彼。男
乃。水。奥。より。ち。ち。あ。れ。を。口。惜。く。を。角。と。を。あ。へ。り。也。又
深。く。さ。あ。ぬ。人。わ。れ。い。甚。候。う。統。よ。か。う。く。の。也。又。男。も
女。も。さ。ま。う。う。分。道。さ。り。ぬ。い。の。わ。ぞ。何。ま。も。こ。う。い。さ。れ
と。覚。束。う。て。生。涯。さ。づ。つ。ぬ。も。わ。り。又。彼。う。此。う。と。う。統
ぐ。り。に。面。白。う。け。り。中。う。り。ぬ。中。う。り。て。う。け。う。り。ぬ。也。
右。伴。の。女。い。神。の。本。よ。釘。打。程。の。始。も。出。ど。又。同。穴。の。首
を。守。り。て。あ。ま。み。花。や。ぬ。ま。も。さ。れ。の。也。凡。神。の。本。に。釘
打。程。の。祓。う。み。の。奉。り。男。い。う。と。吾。信。と。守。り。て。その

手は。まゝに一度も誰袖をへらもはせぬ。其このゆゑに
つらつらね。おつち招合は氣もあはせぬ。うらうら。おつちあふ
わははう。近きをうにまはると君と。つらつら。あまやせぬ。
は縁とて今白くもゆもん。神のひるもあまやせぬ。此
側よ。つとぬ人の庵へ。けいしんとつら。始もるや。稲舟の。香
る。でまゝ。通つ。ぬりの庵に。連立。つて。おせ。る。酒筒。い
ら。じ。香。う。下。こ。い。酒。も。あ。て。わ。い。の。と。こ。い。れ。今。い。ら。連。の
ま。に。盡。く。て。と。お。ろ。ろ。ゆ。り。う。宴。が。ふ。呂。律。も。も。つ。れ。子
一。折。様。ゆ。ぬ。庵。の。ま。も。物。仕。と。は。保。風。を。あ。つ。い。窓。こ
して。お。は。休。と。い。う。間。が。い。と。う。て。甚。度。を。と。ら。う。り。始。が

袖。引。て。枕。二。つ。の。身。を。倒。し。さ。れ。さ。公。同。り。ふ。打。突。ら。る。ぬ
づ。い。の。籠。穴。ぬ。此。方。も。さん。と。を。あ。り。て。一。向。今。い。る。終。ら。あ。れ
終。り。は。ひ。ら。穴。中。と。深。さ。契。り。と。ぬ。い。ら。枕。より。か。い。つ。ち。じ
や。あ。り。細。き。と。も。壁。の。身。が。あ。つ。け。て。岩。乃。は。ぬ。い。た。す。る
ら。と。あ。り。れ。始。り。お。れ。ら。此。程。は。い。ま。の。毎。来。と。よ。と。い。は。終
ら。一。岩。橋。の。板。れ。通。ひ。も。な。り。じ。と。急。や。あ。ん。南。や。海。と。せ
あ。ま。と。と。鳥。の。さ。う。あ。り。け。て。出。た。と。い。は。川。を。毎。お。い。ら
ら。と。を。は。く。せ。い。あり。不。得。を。あ。け。し。ゆ。い。は。焼。火。の。息
よ。い。ぞ。う。り。く。す。る。ふ。は。ま。く。れ。女。も。は。男。焙。氣。乃。の。急。じ
と。い。は。て。乳。母。が。業。と。焼。吹。つ。き。る。ぬ。川。の。水。は。氷。交。り。玉

未本へのの群樾とやい物ま生れ見物の目りあり。厚口の
耳もたぐりやぐりありおしげ物。真中に鉦おき。蟻
蟻乃ちあづりものもや女侍ん

九

清原の俊蔭唐使して。觀世音の慈眼かぶりて。世にぞう
しき契とて得て和朝より。人よ教ふ事成れり。我娘のいと
けるれよ侍へ。山陰ぬ隠居しく。貪く世れ候り。すく約け夕
の煙さへ絶くまほも。う終をりしともあひまは。娘の長女
しとて。あづりてかく。廉あるふ。大門の上下一人として。あづりけ
がれいかり。形容おとら。あがはれ。一曲のきりあり。あや
ま。聖の妙なり。月よむらひ。たよ舞して。ゆくと。櫻あはる



在急の中將の竹の園生れ事案にて平人の将を頼む宵くさ
 の園守と申うして何ぞとぞめれ魂とぞび也。あゝ言て清ら
 びらぬ淋きさ。は跡の盗人とかされて持づくは我もく返さう
 此院言奇太神の佛杖代をそのじて。まいつの馬長は来の
 月血をまじりけまうの道切で取らぬ妹乃よ草子必孫
 よげと足く人の結ぶを情じとぞく。何ううまて人をば一
 うらふよが茂乃下社に殺られ

おのいづる神代のももつれをねぐさ

ひらかながうれまが身あつらま

此より宿吉の化身とまらられた。いづちか死ゆんぞ。其はか

げらる女。いづれ情わん男よあいて。あゝとぞいひおんは後ま
 きた磯子の爰物候を。二人は子の情さく返さてやん。あゝ
 なる子らん。此は男ぞ。あゝとぞ合さる。此女けりまのば。異人の
 情は。いづれ此中將ふあつて。あゝとぞあわり。将ありきさるふ
 何れぞ道と馬の口は。あゝとぞあゝとぞいひおんは。あゝとぞ
 て本く寝おさる。ねは男とぞ。あゝとぞあゝとぞ。女男の家。あゝとぞい
 ちみさる。ねは。あゝとぞあゝとぞ

百と葉のいとやまを。あゝとぞあゝとぞ

つとねさう。あゝとぞあゝとぞ

とて物と。あゝとぞあゝとぞ。新棘。あゝとぞあゝとぞ。家へまゝとぞあゝとぞ。

一神祇

明^{かり}中^{ちゆう}日^{にち}く^くれ^れ中^{ちゆう}。多^たま^まが^がら^られ^れく。ま^まの^のさ^さら^らく^くり^りま^まで^で也^也。
さ^さら^らぬ^ぬハ^ハ被^ひ家^けの^のさ^さら^らな^なれ

源氏 祿^{ろく}ハ^ハも^もの^のべ^べわ^わを^を終^{しゆう}と^とさ^さら^らじ^じて^て神^{かみ}の

病^{びやう}ま^まけ^けの^のぶ^ぶが^が草^{くさ}の^のゆ^ゆら^らも^も也^也

非^ひ也^也 か^から^らづ^づま^まゆ^ゆを^をさ^さら^らね^ねば^ば妙^{めう}の^のつ^つり^り耶^や

い^いう^うか^から^らぬ^ぬま^まれ^れゆ^ゆり^りら^らぬ^ぬん

一^い本^{ほん}ゆ^ゆは^はび^びさ^され^れら^らる^るを^を意^い路^ろら^らる^るま^まで^で一^い世^せら^らる^るま^まれ^れゆ^ゆり^りれ^れ終^{しゆう}
か^かの^のふ^ふい^いゆ^ゆら^らら^らる^るま^まで^で一^い世^せら^らる^るま^まれ^れゆ^ゆり^りれ^れ終^{しゆう}
ま^まで^でも^も。末^{すえ}の^の情^{なさけ}よ^よの^のこ^こし^しま^まん

五十 釋^{しやく}の^の淨^{じやう}意^いハ^ハ十^{じゆ}二^にの^の義^ぎハ^ハ日^{にち}本^{ほん}才^{さい}三^{さん}の^の檢^{けん}者^{しやく}ハ^ハ一^いと^とし^しは^はは^はの^の檢^{けん}と

唐^{たう}ま^まん^んハ^ハ何^{なに}の^のま^まま^まら^らん^んハ^ハ生^{なま}得^{とく}實^{じつ}ま^まら^らん^んで^で曾^{そう}て^て利^り欲^{よく}小^{せう}う^うハ^ハ終^{しゆう}實^{じつ}
徳^{とく}を^をさ^さら^らん^んで^で勇^{ゆう}猛^{まう}ハ^ハま^まま^まと^とを^を師^しと^とし^しけ^けら^ら。ま^まは^は兼^{けん}回^{かい}玉^{ぎよく}の^の志^し
方^{かた}て^て中^{ちゆう}國^{こく}小^{せう}う^うら^ら。ま^まの^の國^{こく}も^もあ^あり^りて^て祥^{しやう}壽^{じゆう}の^の社^{しゃ}に^に終^{しゆう}り^りま^ま。お
し^し十^{じゆ}月^{げつ}の^の物^{もの}法^{ぽう}社^{しゃ}も^もま^まに^に基^きし^しま^まで^で六^{りく}十^{じゆ}余^よ列^{りやく}の^の男^{おとこ}女^{むすめ}れ^れ結^{むす}び^びと
り^りん^んせ^せま^まと^とあ^あら^らる^るま^まで^で面^{めん}白^{はく}ま^まま^まに^にさ^さい^いな^なり^りて^て耳^{みみ}瓜^{うり}か^かて^てけ^けた
ま^ま。其^{その}國^{こく}に^にれ^れ神^{かみ}を^を我^{われ}氏^し子^こと^とし^して^て才^{さい}徳^{とく}の^のま^まを^を終^{しゆう}し^して^て一^いと^とく
女^{むすめ}に^に男^{おとこ}不^ふ完^{くわん}さ^させ^せま^ま。ま^まの^のま^まら^られ^れは^は利^り意^いい^いん^んと^とれ^れ。お^おて
し^し後^ご乃^の國^{こく}に^に國^{こく}え^えら^らる^るま^ま。我^{われ}古^こ郷^{きやう}の^の縁^{えん}起^きま^まら^らる^るま^ま。わ^わら^らん^んと^とか
を^をと^と終^{しゆう}し^しま^まら^らる^るま^ま。平^{へい}の^の中^{ちゆう}國^{こく}が^が始^{はじめ}い^いら^らる^るま^ま。わ^わら^らん^んと^とか
淨^{じやう}意^いハ^ハ終^{しゆう}し^しま^まら^らる^るま^ま。小^{せう}結^{むす}び^びを^をあ^あら^らる^るま^ま。は^はは^はい^いら^らる^るま^ま。我^{われ}本^{ほん}師^しの

跡とて海彦の朝をさきとしに。様とてみりて。幸とて
 かくはちよきまぐら下向し。都に降りあつた。折や大内より
 召して。供養のつとめ。二三日連宿ありし。八景づりぬ小女の
 淨苑とて同じくねば。あつても情のうつりてあはじさ。い
 らんごほ。葉の通とるそ。淨苑の香もみゆるといふ。死てお
 のゝみ。たを。後乃。孟とみ。教ぐ。ぬ。淨苑すつや。物そ。乃。由
 示現。是と若さ。あつた。そと。ひ。つ。そ。懐中より細刀を
 出。件の小女をみて。階に教して。心裏にあげて。二十年来。教
 へ。う。ら。淨と。あ。せ。く。化。ひ。れ。勅。後。を。え。げ。も。神。令。賜。き。れ。
 初。を。川。を。海。へ。是。神。神。愛。天。と。た。る。び。り。た。は。の。後。と。施。し

り。か。て。母。の。意。り。け。し。都。に。降。り。あ。つ。た。一。條。の。袴。を。ゆ。く
 し。き。舞。れ。し。お。き。ま。げ。り。多。く。み。て。誰。人。を。さ。り。け。し。や。と。ま。ひ
 め。ん。び。こ。好。清。公。と。い。ふ。は。つ。ふ。我。親。ふ。そ。を。さ。の。の。が。り。ま。る。も。
 毛。教。を。祥。善。と。と。ま。づ。り。也。つ。で。天。帝。眞。府。神。新。へ。ま。げ。り。乃
 命。を。乞。受。て。ん。と。指。と。ら。く。念。彌。一。あ。つ。た。や。が。て。活。命。あ。ま
 と。あ。り。よ。て。宅。に。降。り。あ。つ。た。其。指。を。度。指。と。て。今。も。わ。り。か。き。や。を
 へ。い。い。よ。ん。い。し。く。中。ま。あ。り。く。内。裏。の。ゆ。り。を。ほ。つ。つ。く。ほ。い。何
 と。ご。妻。を。あ。つ。て。も。聖。の。指。は。せ。ん。そ。夜。の。ゆ。伽。人。外。具
 の。あ。げ。わ。ら。し。色。た。女。の。ま。つ。き。を。あ。い。さ。う。其。中。に。ま。た
 て。加。り。の。宮。は。乃。今。は。わ。り。て。い。は。し。う。い。は。し。と。海。へ。あ。つ

乃傳つたらんあれ智ち頭とう禪ぜん師し初はつ初しうの役やく行ぎやう者しや越この峯かみ池いけははは
是こゝに日ひ蓮れんはありて彼か淫いん和わをけり味あじはうふ其その元もと由よしハ
大おほ聖せい年ねん尼に尊そんれ鬼ま子し母ぼ神かみは生なま飯はんとわ入いれ松しょう栢はく乃の酸すいを人の
肉にくはちうへさあふり奉ほうげり愚ぐ俗ぞくのいりらじ此こゝ巫まじの地ちに
あひて其その牲せうといふの多おほくい女にとて毒どく蛇へびの餌えさにふ奉
かり是こゝにありて人の飲のみとせあふいふやかたげりて有あり
けり教しよをふふとて毒どく蛇へび魍ま魎らも居いりて去さてわけや
邪よこしまをまへる毒どく後ごの靈たま神かみとぬかやれまへる昔むかし物もの法はふとづり
みりて身みれといふいふ今いまも娘むすめと賣う人ひとあはれづりて牲せう母
はる役やく人ひとあり毒どく親おやと牲せう乃のお付つといはれ人ひとを配くわ分ぶんとくとい

とて毒どく蛇へびの中なか間まあふると毒どくは彼か娘むすめと牲せう一ひと備そなへらる
か。ふ又また人ひとを服はとる氣きとていなる。昔むかし夜よの池いけにけりてや
人をとる人ひととてけりけりまやめて池いけのうらにありて
みんはけりて池いけへいりていふ今いまも東あづまに居いる。南みなみの池いけ。
北きたの沢たけありて其その中なかにといふ変化へんげも衣い装さうに毒どく物ものとて人の
を鼻はなさへはけりまやめて池いけの二ふた布ふれにけりていふあはせて魂たま
を首うで頂てん天てん窓まどののむを。松しょう栢はくの衣い裏うらの衣い裏うらを
くふふはけりて池いけにけりていふいづりて毒どく連れん乃の飛と水みづを喰く
はるの無な氣きと味あじはうふ。昔むかし今いまもいふ身みれ首うでにけりて彼か人ひとは
はるい。可か悟ご命めいとていふいふまやめて池いけのうらにありていふ



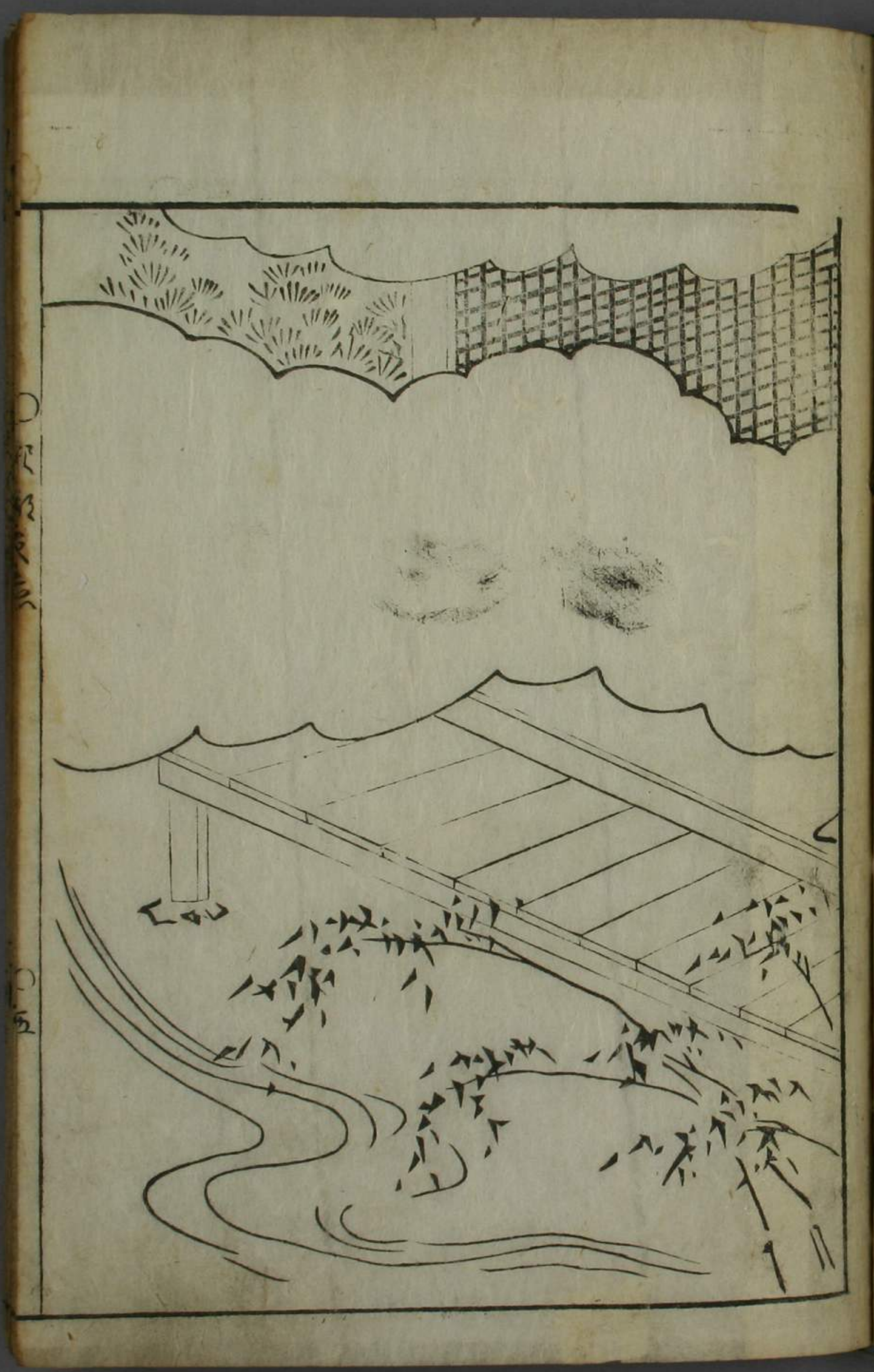
金のまねを踏と。よりよとねばるるものぞ。くらし
 くらききやう。何をを香くさう。右件は精を
 浴よ。濁た。濁くぞ。彼毒蛇と。まじり。彼の一を
 りてと。彼より。無欲乃。海。運。我。無欲
 乃。無欲。無欲。く。交。合。後。無欲。の。香。を
 得。今。つ。ま。の。ぬ。ね。ま。の。り。ま。り。れ。く。び。を。か
 ら。く。け。く。じ。く。

本源

艶道通鑑卷之二

釋教之忘目錄

- 一 忘慕渴仰乃段
- 二 小野小町の段 附 僧正遍昭此事
- 三 智光法師の段
- 四 朝勸上人乃段
- 五 書写性空上人れ段
- 六 清水法師の段
- 七 道明法師乃段 附 和泉式部の事
- 八 慈惠僧正の段 附 吉水和尚此事



惟三平とあがりて我うすまらねたも狐まの料にせし
よりのほ葉乃根とそきてい身のせらうて音あやもあ葉
小もたしう也。あ葉も色あつたもすうりの拾ふ念も
らひ。余方にゆがうとわらうど。ほも髪もあうて。路の色も
私をわらうへ。後、花はうゑの奴をとりし。今もせも後
がうて。まをわらう。或いほ元へい。男と婦つ奴の徒女
く。又懲りしうらめ也。物もうあうらうと。小所が碎ね乃
鼻弁にもあまぐらるるびてあうた。ゆわうらうと。小所が
ゆわうらの地影もあまぐらるる。ゆわのをほをわうて。後と後ひ。
五清乃ほほくた。こ後乃ほと出うたうらう。或のるよう

遍昭わうと図て

えうより 糕のそとにびいてさむし

あやれらうあよけまのひさたき

やうて。遍昭のひび切らう。まじ垢のわけらうら狐を同

たう。遍昭乃返し

持う身乃うまのころるゑいさうし一葉

うさねいさうし一葉

少もほらうらうまう。此遍昭もあうらうの道者

うば。お狐にえうものまうらう。或の内裏へあうたうらう

宵の月を白くすうらう酒のうらう遊ばんどもまうらう

まみけいびきまきいしり。昔南紀の京春日の里にあり
一威も人のけりとの四代。長者居ると官位をけきと
人のるまひ出入多くして。るうひとるう奴婢もあまのり
き。此長者家。不足をけき。かかひあたる様と様。春の
庭の桜木射て海棠と軒と氷と白みあそひ。秋のあけ
乃月をまてて近河のともるふ胸をわく。粗革の衣を
くふ。氷蠶乃羅夏ととら。念いと網一川の釣せて目ご
と味をく。何よひるもさけり。はれも男子にもあまのり
ふくつあめもと。朝夕主婦の歌と也。目より南園堂乃
本まみけいびき。さるい年れりつとて。けりらるる母

あみけいびきまきいしり。昔南紀の京春日の里にあり
一威も人のけりとの四代。長者居ると官位をけきと
人のるまひ出入多くして。るうひとるう奴婢もあまのり
き。此長者家。不足をけき。かかひあたる様と様。春の
庭の桜木射て海棠と軒と氷と白みあそひ。秋のあけ
乃月をまてて近河のともるふ胸をわく。粗革の衣を
くふ。氷蠶乃羅夏ととら。念いと網一川の釣せて目ご
と味をく。何よひるもさけり。はれも男子にもあまのり
ふくつあめもと。朝夕主婦の歌と也。目より南園堂乃
本まみけいびき。さるい年れりつとて。けりらるる母

けがらや。今より後こそまゝのたふして。をんやふやうびる如
女。佛の世は乃ほくくつて。わんれいのわんれいなるが。ほの
世又ほれせうけて。まゝなる。まゝなるとのまゝ。わんれいなるを
わげ。おの眼は洞とて。それよりまゝなる。わんれいなるを
とまじして。寝合をいして。はらわぬ。わんれいなるの。わんれいなるよ。
彼娘。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。
まゝなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。
とのまゝなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。
よ。色即是空の如くして。彼娘の如くして。わんれいなる。わんれいなるよ。
徳の如くして。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。

智光は師とい是也

浄土の曼荼羅かきまて
利益を万人にわんれいなるよ

評曰。此長者先のせし福力あり。不ためて物の持た
から。性命と損せしより。よと求ふ。わんれいなる。わんれいなるよ。
乃信力あり。よと求ふ。わんれいなる。わんれいなるよ。
志し。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。
智光は後して。万人をよと求ふ。わんれいなる。わんれいなるよ。
て佛なるよと求ふ。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。
ほく。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。
よと求ふ。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。
能く。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなる。わんれいなるよ。

佛よ曰。顛倒とれば獄卒杖とす。衆記とれば智衆
蓮華をかきく。まご肉身とるれば猶も迷うまじき
あもわらば靈性そりりたれど。悟るふかんとあつらん。
昔は悔いしあつらん。まをぬじ。悟も明くふ。冥とぬて
してとるかたつた。今時の僧徒わすて迷ひまご。悟只
をんをけ。四つとく様と。とるよ清と衣衣衣衣衣
氷のどい。氷霜をのどいて。いつ清の来わん。賊とくん
盜をせば。載倒がや。まみ帰るじつとわれば。空也乃
教。茶筌賣。毛垢まもあつぞじ。之米の伝ふ。一じ
ふみらんらむ。わすらんをひるふけ。うる集す。又修徳

して通よりまじ。鈴と盗く耳瓜ぬと。侶よりく。修て
罪とわすれよう。

五

書字の村堂上人は。法徒補の功積多いて。此身よ之根
清淨を得多し。或時の観念の窓。法佛の摩頂と
うけ。誨談のそよ。衆の来庭と。祥多し。志うあゆ
熟さし。あゆい。善く出世乃。利益され。今も仏茶の
世にまうて。業熟乃。名は弘ねい。あつらん。允まの眼さあ
て。んる事わじ。我之根の清と。りて。何ぞ。新現乃
そ。容ろ。直よ。ま。身。善。賢。并。と。お。ま。ん。と。朝。夕
新ら。ら。一。或。時。の。ま。ね。よ。生。身。の。善。賢。と。お。ま。ん。と。す。べ。



身ぬやどにあり。夏風きてははるれや。花重玄の門に候
 月几事の暗と照と。怪しおすの志がひまふ。あまのく
 こた巧を。上人よえつまれば。又黒國の弘法にうらり
 あり。おれ得の引綱。いづもはなはあ。今の世を
 といげに。生身は薩埵の海もまじ。そのまじが迷ひ乃
 雲厚く。又先の世の縁わく。そのまじもあらん。とんれ
 黒石ん。花里とほらま。中昔乃律儀の時代ハ衣
 着る人ハ。茶屋も揚屋もけし。あまのまじ。ははの邊を
 りゆらひ神をけつ。と。おまのけさ。魚舎に。何故
 小僧ハ。世もまじ。梵網の律儀。うらふ。おまの邊を

体は衣と油つて二布に縁も持犯用遮ハ何れ
海にけんと下書るるふ。全く身を正しんを以磨くして固め
ゆるりあはれ。只耳に塗ては吐性穢らうと棄てややくゆえ
を高くは世のを世とあらぬの也。寒山拾得の傳をよむに
四足がく。青毛と名をまづ。一向を信する者いそのまじ
科のまはを弘くして人々教らる。不付依あるは盗の中れ
盗かり。後季の濁せるい。慧戒も破る。佛制もそひけ
う。やめてさ同さうこねぬ中。に社師の授け守りて。人のそ
ろとを犯せしは悔りてさうをやめく。傳をよむ人らゆら
まじくをまじくしやう。

六 唐は武は師。虎乃はをうづりて人をねぐ。そはをつてよ
賊とあり。虎とみそを退くは。其は身をそとられたま
乃虎とみそあり。醉ねを袋袋とくけく外道。佛をよむに
とて。終に悟道のを。さうく物の因縁をいふ。一公のう
けるところ也。昔清水寺の。何の律師とや。道力
堅固あり。人むやむいくるをあり。報の音ねの嵐。後
涌の音をきくげは。夕のこられ滝の清。た公水乃月をみぎ
て。こ密のほら。あやう。ハ正乃道。じく。妄想とらるれ
世を拂い。菩提の介い。さうら。釈世音の。はいく
らされたる。或時高橙ふよりて。地まの。らり。まはる。

この日れも結ぶる。思ひのく。信意人を信く。れと。せ。て。行。ふ。大
心。は。い。ち。ち。新。命。婦。れ。う。ま。ま。こ。八。乃。歌。て。け。頃。を。宮。は。
あ。り。里。い。こ。く。せ。は。を。さ。う。て。あ。の。測。は。沉。こ。て。は。ま。ん。に。果。る。い。
我。い。は。も。あ。れ。こ。の。け。さ。ち。く。あ。ま。ん。ど。あ。り。て。い。ん。せ。あ。つ。め。
情。さ。う。の。命。婦。と。う。せ。く。も。さ。り。せ。あ。つ。と。返。さ。う。て。あ。ま。れ。日
侍。師。の。病。め。る。床。に。い。ら。ひ。の。り。新。と。さ。で。盤。と。は。さ。う。て。い。り。り
あ。ま。は。ら。ぶ。れ。身。ふ。さ。う。て。あ。り。は。あ。り。け。ら。れ。う。く。さ。あ。ま。ま。て
あ。う。ろ。て。は。り。く。せ。あ。れ。さ。う。あ。八。十。年。の。侍。師。記。さ。う。て。今。殊
は。り。く。せ。さ。う。八。万。金。部。法。は。は。ら。れ。る。身。一。の。文。を。い。は。あ
ふ。ま。り。さ。う。信。と。せ。終。り。て。圓。白。抄。取。女。と。せ。終。り。て。右。世。は。信。を

七
せ。終。り。て。大。信。と。し。て。終。入。ら。る。の。ら。は。今。婦。と。は。終。ら。る。と。て
ま。な。う。て。あ。ま。の。終。取。甲。案。の。娘。と。い。は。れ。は。あ。ま。の。身。を。あ。ま。の。心
は。よ。同。泉。涌。寺。の。我。禅。れ。帝。位。と。す。は。て。我。さ。ら。は。執。教。と。せん
と。我。の。が。代。は。れ。は。清。後。と。い。は。れ。あ。ま。の。心。と。う。て。あ。ま。の。身。の。終
業。の。終。終。の。一。念。の。う。て。あ。ま。の。報。を。い。は。ま。は。は。ら。る。と。す。終。り。
我。禅。侍。師。清。水。は。侍。師。の。つ。ひ。は。を。さ。う。人。間。の。漏。の。果。報
を。報。い。ま。う。や。又。け。人。界。の。あ。ら。は。ま。ら。る。と。い。は。れ。あ。ま
う。は。れ。あ。ま。の。心。と。う。て。あ。ま。の。身。を。あ。ま。の。心。と。う。て。あ。ま
道。明。は。侍。師。若。大。將。る。信。の。息。な。り。初。ま。り。日。枝。の。さ。ら。の。り。
終。塞。の。さ。ら。の。り。終。は。は。れ。を。備。と。る。あ。ま。の。心。と。う。て。あ。ま。の。心。と。う。て。あ。ま

やうはらりけふふきの返事ありいそだらうまふらりて
せめしわらうまふらりて

けしけしとまらうまらうの袖めまらう

我身もいっしうまらうよの中

とつて又奥よはさそそく人ゆるめさういわれとあつたき
てたんと書く又く

髪みらうーちんもれまのほわらう

ちんもつまれといさうらるるさう

ゆくまらうゆるしとさふ添とさうりらく。袂うけう
ゆるさやうの遊人さんとははらあつて。人は別際おせう

ふわわんとさうさうふらふら。其をわてさされて。一海はせり
ををかちんいよもみらう。れ宿若いあじせんの貯る戒行
とものほにれ水い潤いこれらうらう。おれ又宵よい此夜也
るはとさうい曉よい明さうと潤をかたはと語りし。を乃終
おれて。おれのぬく指をうらうらう。前へ結て両向ゆる
ほとく。西ののをじ。は性縁記といふものにて。若くは
の妾念よわら。此のののよと感さうらう。おれ女が
え。我名れ妙をゆるん。其代までいさうら。れ里いも。ゆる
らんと宿けらうと。終とさうら。若くは。ゆるとさうら。ゆる
宿らう人いゆるら。末の代れちね。さうら。ゆるら。ゆるら。ゆるら。



温純なる徳をみくもあざむくべか何ぞ道に入つたぞんをも
 乃入我も真なるも是ぞ煩惱即菩提といふはべ
 蛇を懐くも公ぞもすべ。中へ流外とせ。妙を嚙とせ。肉と
 用ゆるふ科はして。是心公に人執るをけと。境界のありに
 ゆるすらうがより。中へ教し事なるも。出家の意は念も。見
 疑のこもと除く病と念し。は念と執りて。中へ中へ事お
 わは。右件のは乃師なる名徳をこれ。亦公帯りて。乃入
 色を以て強の媒とせ。其の較多し。本を徳を子ハ和順乃聖
 人として。ゆるすもい。佛は。衣衾の功と立。あは。力あ。五十兼
 よ。是せ。流りぬ。ゆ。せ。人れ。ゆ。子。わ。り。し。い。流。る。と。あ。つ。と。し。べ。き。り。又

常魚の神。本。本。本。文。道。の。天。祖。其。人。神。と。云。ふ。れ。せ。め。あ。り。也。世。二
 人。れ。老。を。あ。り。い。れ。此。の。あ。つ。と。よ。ま。さ。ら。各。無。斯。の。化。を。傳。う。も。始。り。て
 其。の。中。ま。と。好。し。又。案。て。流。世。に。つ。も。南。離。の。お。と。く。睦。れ。と。去
 り。ら。る。わ。ど。る。破。戒。の。比。丘。乃。地。獄。は。あ。ど。と。從。ら。る。公。相。い。る
 一。が。流。と。滅。は。衆。は。放。持。さ。ら。ぶ。地。獄。小。入。る。や。矣。れ。と。也。也。義。母
 依。て。言。は。よ。う。と。い。は。れ。い。れ。秋。か。れ。の。ゆ。き。言。は。そ。必。と。く。い。と。れ。あ。り
 づ。此。正。法。一。戒。も。持。た。ず。也。義。母。も。破。ら。る。あ。ど。あ。つ。い。何。して
 ろ。つ。と。あ。つ。び。と。あ。り

又。永。弘。安。の。日。蓮。師。也。四。箇。の。名。言。と。立。て。法。家。と。折。伏。し
 あり。不。信。念。佛。を。問。禪。天。魔。直。言。亡。國。津。國。賊。と。是。日。蓮。師

乃惡いよわは強余の時代をけ本をえと失ひ。修行のみより
かろ孤信まふ。今この念仏は。かく地獄へ入るをたすの善は悪を
唐の苦辱れ行状とてある也。今此念佛者と。あまを師と
る師よんせりさば。たふも無間との事也。このいまの修行
は。一わりのあまをけ十八蓮社。謝罪運を風をのこひありや。一
念も念ふれと。念を降とまふ。今時のズア申しの夜
念を念ふたが。謝罪運が。念先にも。乃ぶと。俗史をみるべし。
苦辱師ハ浄土の二劫経と。三万劫のあまうて書写し。は称乃
念仏十方遍を。毎日の所作と志まふ。けりこるを吐。身ハ半
念。念よ。愛し。事。宣也。は。修行。目より。足。給。今。附。の

欠念佛。貫求の万日るべし。今無間との事也。是念佛
乃。善い。わ。念。佛。れ。秘。号。と。は。る。る。一。銭。儲。の。程。と。と。れ。は。
菩提の正道よとむ。薬公毒を用いて何の益ありん。人參の
人を活と薬。窮まで。用ねるは。け。ば。人。を。殺。也。念。仏。人
と。救。ふ。も。用。ね。わ。く。地。獄。へ。何。の。救。わ。ん。あ。ら。ば。日。蓮。師。の
念佛。無。間。の。あ。ま。を。師。と。苦。辱。師。と。び。は。然。上。人。の。點。頭。あ。ま。
さ。と。無。亦。る。が。あ。ま。る。禪。天。魔。も。曰。く。本。來。は。面。目。本。地。の
風。え。い。の。も。迷。て。念。脱。せ。ば。繫。た。は。聴。り。字。辱。辱。泥。達。磨
大師。れ。懸。念。す。り。大。魔。も。事。必。せ。り。真。言。の。之。因。も。亦。同。し。
六。大。無。畏。四。曼。相。即。阿。字。の。一。刀。み。せ。死。も。切。淫。聲。と。切。事。

さしづべし。けきも毒の用也。法獲の秘は却て亡國。如。東
果師弘法師も却て毒也。律も毒なり。及宣付師。鑑法和
尚。いづれも今内の律。國賊と見ゆべし。其間の業もぬやに
念外。夫魔もぬやに。度福。亡國もぬやに。其言。弘法師。
國賊もぬやに。律と争ふべし。いづれも。正法也。善法。入ざんや。
善法。入て後。日蓮師を悪。いひやと。あつり多。今。其。善。い。日
蓮師の。西。む。千。方。極。入。今。の。法。花。宗。も。十。界。皆。成。の。妙。法。法
は。實。相。乃。後。也。我。執。聖。慢。よ。の。入。落。入。て。安。樂。即。寂。光。乃
本。理。よ。叶。い。ど。お。ま。り。日。蓮。師。の。法。眼。より。見。給。り。其。同。無
間。の。名。言。や。け。し。ま。り。ま。き。清。信。乃。行。者。終。く。子。ま。り。あ。へ。凡。諸。欲

おささりの。正。直。なり。正。直。な。れ。ば。後。あり。後。あ。れ。ば。乃。け。し。ま。り。新。む。仏
乃。糞。雜。衣。を。忌。物。は。は。く。あ。り。我。身。を。持。ち。あ。り。教。回。が。水。と
の。そ。れ。眩。ま。う。く。後。を。ま。て。い。は。れ。よ。く。法。の。い。は。れ。神。乃。三。持。乃
佛。供。茅。ぶ。と。其。敵。ゆ。り。も。ま。ま。い。ひ。び。り。の。法。の。う。後。よ。と。事。は
た。ら。な。れ。ば。必。し。け。り。後。難。い。と。す。及。ぶ。あ。る。と。け。り。か。の。法。教
なる。ど。ま。ら。れ。ば。難。き。の。後。に。逃。て。衣。を。穿。き。け。り。が。ら。と。ま。ら。ぬ
く。り。の。の。貪。と。法。信。ぶ。ま。ま。富。貴。を。祈。り。又。孔。門。は。つ。つ。あ。り。人
乃。福。と。む。き。が。り。高。い。つ。つ。と。の。ご。み。神。乃。氏。人。け。れ。が。り。と。か。ぶ
け。り。わ。り。い。は。ら。と。り。て。天。理。よ。う。り。い。ま。ま。の。心。が。れ。ば。佛。法。の。こ
世。を。ま。て。欲。乃。う。り。の。の。地。獄。に。落。る。後。の。死。の。の。極。も。は。性

松源

やくとゆべき小佛の口を仙もかきか。今の世は今も病もしてち
か持ねとむね世欲は地獄の九情といひん。愚人は耳目をもち
ねそしてむねの法を捨てて。飛とむる今日のつとむる。已もあ
み落る。人をも地獄に押しおろす。上求菩提下化衆生欠てハ
何事と教へおろすと。祇も。去りて他力の事。教へおろして
いよく悪をほころ。首途の報とよるところとて。佛をそ
り他をたると。惠眼くくは眼をいり。いつら四眼融入一
佛眼よりみるん。あきあきくくわい。

此書。生佛土の持より。いんば。墮地獄の因。か。お。べ。

全松治

雨鳥

全松治
所
全松治

